

発行
NPO 法人東出雲まちの駅女寅
〒 699-0101 島根県松江市東出雲町摘要 802-2
TEL0852-52-9311
協力
意宇六社会

国引き神話

「今は国は引き訖をへつ」と詔りたまひて、
意宇おもの社しに、御杖ごじょう衝うき立てて、
〔意惠おゑ（オウエ）〕と詔りたまひき、
故、意宇おうと云いふ。

（『出雲國風土記』より）

「意宇」は、古代出雲国の政治・文化の中心地。

そこに鎮座する六つの社

「爰あに意宇六社とて有そ、其その一つ也。」

六社とハ当社（揖夜神社）及び熊野大社・
大庭かもしの社・山代いざなぎの社・

佐草の八重垣・大草の六所神社これ也。

巡拜の人、格別の社なれば一々心をとめて拜礼すべし。

（江戸時代『出雲神社巡拜記』揖夜大明神の条より）

全ての神社が、出雲国造ゆかりの社。

遙か古の故郷から
神々は、何を語りかけてくるのでしょうか。



意宇六社
周辺マップ



六社めぐり
おすすめルート

八重垣神社・神魂神社・眞名井神社・六所神社周辺



熊野大社

境内社／御祭神
稻田姫
奇稻田姫
脚摩乳
手摩乳
稻田神社
伊邪那美神社
伊邪冉尊
伊邪冉尊
素戔嗚尊
素戔嗚尊
素戔嗚尊
素戔嗚尊
倉稻魂命
倉稻魂命

鎮座地 松江市八雲町熊野2451番地
御神紋(社紋) 龜甲に「大」文字
伊弉那名子 加夫呂伎
日真名子
「日本火出初神社」とも称され、古くから杵築大社(出雲大社)と並んで出雲國の大社として崇敬されてきました。

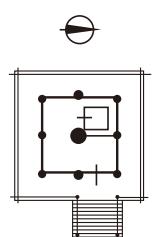
朝廷からは、仁寿元年(851)に従三位を貞觀9年(867)には正二位の神階を授けられ、明治の制度改正以降は「国幣中社」として、「国幣大社」に列せられました。

◆御本殿および御内殿
大社造。
桁行17尺(5.15m)×梁間17尺(5.15m)

◆本殿内絵画
現在の本殿に絵画は描かれていませんが、出雲大社も寛文造営以前の本殿には障壁画が描かれており、当社も末社殿内に彩雲が描かれていることから察すれば、本殿にも他の5社同様に絵画が描かれていたものと思われます。

◆境内の見どころ
鑓火殿
当社独特的の建物で、屋根は萱

唐獅子(狛犬)
製作年…「文政八年酉九月」
製作者…「石工万助」



神魂神社

鎮座地 松江市大庭町563番地

御神紋(社紋) 二重亀甲に「有」文字



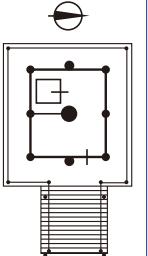
◆境内社／御祭神
御金宮 武勇社 経津主・神ほか2神
蛭子社 蜷兒命
熊野三社 速玉男命・事解男命
菊理姫命
天照大神 月夜見神
神素彌鳴尊
葦原醜男命
貴布禰社 閻羅神
稻荷社 倉稻魂神
外山社 鷲頭草葺不台尊ほか1神
荒神社 奥津彦命ほか2神

◆イザナミの大神を祀る「大庭の大宮」さん
当社は、出雲国造の祖「天穗日命」が此地に天降られて御創建にななたと伝えられています。

伊弉册大神をお祀りし、出雲国造が靈龜2年(716)まで当地で自ら御奉仕なさいました。杵築へ移住後も「国造館」は明治の頃まで鳥居近くの土居に構えられており、大庭へお越しの際にお使いになつていました。今も、神火相続式ならびに毎年の新嘗祭には、必ず御参向になります。

武家の崇敬も厚く、近世における社領は、杵築・白御崎に次ぐ石高が安堵され、地元では「大庭大宮」とも云い、親しまれています。

◆本殿内絵画
〔国宝〕現存最古の大社造。
桁行19尺(5.76m)×梁間17尺(5.15m)



同じ室町時代の優れた建造物です。

灯籠(石段の参道脇)

内壁8面と扉2面、および天井と梁に、神事相撲や彩雲・雲龍などの絵画が描かれています。

◆境内の見どころ
二間社流造の社殿(境内末社)
貴布禰稻荷神社

珍しい神社建築様式の社殿で、国の重要文化財に指定されています。御本殿と

岩をいくつも積んでこしらえてある大石燈籠がある。(『知らざる百の面影』)



◆出雲国一の宮、日本火之出初之社
『日本書紀』齊明天皇5年(659)に「出雲国造に命じて嚴かな神の宮を建てさせた」と記され、『出雲國風土記』(733)に登場する4大神のうちの1柱「熊野大神」をお祀りする神社です。

「日本火出初神社」とも称され、古くから杵築大社(出雲大社)と並んで出雲國の大社として崇敬されてきました。

朝廷からは、仁寿元年(851)に従三位を貞觀9年(867)には正二位の神階を授けられ、明治の制度改正以降は「国幣中社」にして、「国幣大社」に列せられました。



眞名井神社

鎮座地 松江市山代町 8-4番地
御祭神 伊弉諾尊 天津彦根命



神名越野に鎮座する「イザナギさん」

茶臼山（かんなび山）の中腹に鎮座し、『出雲國風土記』や『延喜式』にも記載されている古社で、通称「伊弉諾さん」、参道を「伊弉諾馬場」と云つて親しまれています。中世の室町時代には、伊弉諾尊をお祀りする神魂神社と併せて「両神魂」とも称されていました。

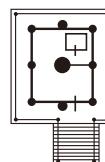
社有地内にある「天の眞名井の滝」は、古くから信仰の対象として崇められ、その神水は出雲国造の火繼神事と新嘗祭に用いられます。

御本殿および御内殿

◆御本殿および御内殿
大社造。
桁行16尺(4.85m)×梁間13尺6寸(4.12m)
◆本殿内絵画
内壁5面と扉2面、及び天井と梁に、7月7日の神事や彩雲・雲龍などの絵画が描かれています。

◆境内の見どころ
唐獅子(狛犬)
製作年…[慶応三年丁卯十二月吉辰]
製作者…[松江町 石工 武八作]
と刻まれて居り、幕末に活躍

した松江城下町の石工「武八」が製作したもので、大庭地内で最も大きくて立派な唐獅子です。



八重垣神社

鎮座地 松江市佐草町 227番地
御祭神 稲田姫命(稻姫)・青幡佐久佐日古命(青幡佐久日古命)
(合祀)

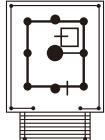


◆境内社／御祭神
伊勢宮 天照大御神
天鏡神社 稲田姫命
脚摩乳神社 脚摩乳神社
(合祀) 稲田別命
手摩乳神社 手摩乳神
(合祀) 譲田別命
貴布禰神社 高麗命
山神神社 倉宿禰命
大山祇命

縁結びの大神

素盞鳴尊が、出雲の妻の川上で稲田姫を中にして老夫婦(脚摩乳・手摩乳)が泣いている様を御覧になつて、その理由をお聞きになり、斐の川上から7里離れたこの地「佐久佐女の森」の大杉を中心には八重垣を造つて姫をお隠しし、「八岐大蛇」を退治して稲田姫をお救になりました。その後素盞鳴尊はこの地に宮をお造りになつて御夫婦の宮居とされ、「八雲立つ」出雲八重垣妻込みに八重垣造る。その八重垣をの御歌の八重垣をとつて八重垣の宮となさいました。御夫婦が生活を始められた所であり、縁結びの神社として知られています。

◆本殿内絵画
大社造。
桁行14尺6寸(4.42m)×梁間12尺6寸(3.82m)



◆境内の見どころ
宝物収蔵庫
本殿内の外陣を飾っていた壁画
(国指定重要文化財「板絵著色神像」(3面)ほかを展示しています)。

◆御本殿および御内殿
旧内壁3面の板壁に描かれていたものが、宝物殿で保存展示されています。社伝によれば、描かれているのは、素盞鳴尊(稻母大神・天照大神・市杵嶽姫命・田姫命・脚摩乳命)の6神像。

◆境内の見どころ
異なる姿の珍しい狛犬です。

◆境内社／御祭神
末那為社 倉宿禰神
児守社 底筒之勇命
守神社 中筒之勇命
上筒之勇命 息長足媛命
底筒之勇命 息長足媛命
中筒之勇命 息長足媛命



◆境内社／御祭神
末那為社 倉宿禰神
児守社 底筒之勇命
守神社 中筒之勇命
上筒之勇命 息長足媛命
底筒之勇命 息長足媛命
中筒之勇命 息長足媛命



六所神社

鎮座地 松江市大草町 496番地

御祭神

伊弉那岐命 伊弉那美命

天照大神 月夜見命

素盞鳴命 大己貴命



出雲国の総社

出雲国府に鎮座する神社。古来、出雲国の総社として諸神を併せ祀り、国内の神社に幣帛を班つ祭儀や天下泰平・国家安全・万民快樂・五穀成就の御祈願など年中72度の祭礼を斎行してきました。神在祭の内容を記した現存最古の史料『佐陀大社縁起』(室町時代)には、全国の神々は先ず当社へお集まりになると書かれ、小泉八雲も出雲五大社の一つとして紹介しています。

◆御本殿および御内殿
大社造。
桁行15尺4寸(4.67m)×梁間14尺(4.24m)

◆本殿内絵画
旧本殿の内壁を飾っていた
勅使代参向図や祭儀図等の絵
画(5幅1面)が、島根県立古代
出雲歴史博物館へ寄託・保管さ
れています。

◆境内の見どころ
唐獅子(狛犬)
製作年…安政4年丁巳
製作者…【阿形】寺町石工林
藏作

◆門作
と刻まれており、松江藩の名
工「林蔵」と「伊右衛門」が技を
少彦名命 事代主命

◆門作
洗練された公家の顔立ちの
隨神は当地では珍しく、虹梁文
様は江戸時代後期の特徴を示
しています。

◆隋神門
兩国造(北島齊孝・千家尊
福)の揮毫による「出雲国府總
社」の石碑。(一対)

◆出雲國造の石碑
隨神は当地では珍しく、虹梁文
様は江戸時代後期の特徴を示
しています。

揖夜神社

鎮座地 松江市東出雲町揖屋2229番地

御祭神

伊弉諾命 大己貴命

少彦名命 事代主命



黄泉がえり神話の聖地

「日本書紀」齊明天皇5年(659年)の条に「言屋社」、「出雲國風土記」に「伊弉夜社」、「延喜式」に神名帳に「揖夜神社」と記され、朝廷からは、貞觀9年(867)に從五位上、貞觀13年(871)には正五位下の神階を受けられた由緒のある神社です。近くには、黄泉比良坂は、今「出雲国の伊弿夜坂」と謂う」と書かれたその伝承地があります。また、事代主命の神話も伝承されており、まさに神話の聖地に鎮座する神社です。

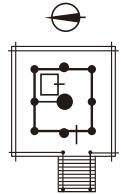
◆御本殿および御内殿
大社造。
桁行14尺(4.24m)×梁間13尺(3.94m)

◆本殿内絵画
内壁5面と天井に、御田植神
事や彩雲などの絵画が描かれて
います。

◆境内の見どころ
唐獅子(狛犬)
製作年…天保十五甲辰年九
月吉日

製作者…松江堅町 石工伊
右衛門喜市造

と刻まれています。



龜の台座(亀趺)を持つ燈籠

製作年…天保六乙未三月
十九日(右・左)

奉納者…當町網方中(右
左)

製作者…石橋町 石工唯七
郎作(右)

と刻まれています。

境内社／御祭神

韓國伊太氏神社 韓國伊太氏神社
素盞鳴尊 五十猛命

天満宮 天満宮

菅原道真 菅原道真

御神紋(社紋) 二重龟甲に「有」文字

御祭神 青幡佐久佐彌命

王子神社 高御産靈命

天満宮 神御產靈命

菅原道真 神御產靈命



各社の主な文化財と各社トピック

熊野大社

◆文化財

島根県指定文化財

◆紙本墨書き「熊野神社文書」

4巻(40通)1冊一枚

〔古代出雲歴史博物館寄託〕

〔松江市指定文化財〕

◆榮螺形兜(1頭)

寛永20年(1643)製作

〔古代出雲歴史博物館寄託〕

〔和鏡(7面) 鎌倉時代~室町時代

〔熊野銅鐸(1個) 弥生時代

〔風土記の丘資料館寄託〕



鑽火祭(亀太夫神事)

かめだゆう

数あるお祭りの中でも、最も有名なで、熊野大社の特色がよく表れているのがこのお祭りです。

毎年、出雲

大社の宮司

(国造)が「古

伝新嘗祭に使用する縁日燧杵(の神

器を受取るために、出雲大社へ参向

し斎行されるお祭りで、出雲大社の拝殿で斎

餅の出来はえについて、亀太夫という

社人が出雲大社の神官へ苦情を申し

立て、来年の約束を取り付けた後に神

餅と神器の授受が行われるという、一

風変わった神事が行われます。

毎年、出雲

大社の宮司

(国造)が「古

伝新嘗祭に使用する縁日燧杵(の神

器を受取るために、出雲大社へ参向

し斎行されるお祭りで、出雲大社の拝殿で斎

餅の出来はえについて、亀太夫という

社人が出雲大社の神官へ苦情を申し

立て、来年の約束を取り付けた後に神

餅と神器の授受が行われるという、一

風変わった神事が行われます。

毎年、出雲

大社の宮司

(国造)が「古

伝新嘗祭に使用する縁日燧杵(の神

器を受取るために、出雲大社へ参向

し斎行されるお祭りで、出雲大社の拝殿で斎

餅の出来はえについて、亀太夫という

社人が出雲大社の神官へ苦情を申し

立て、来年の約束を取り付けた後に神

餅と神器の授受が行われるという、一

風変わった神事が行われます。

毎年、出雲

大社の宮司

(国造)が「古

伝新嘗祭に使用する縁日燧杵(の神

器を受取るために、出雲大社へ参向

し斎行されるお祭りで、出雲大社の拝殿で斎

餅の出来はえについて、亀太夫という

社人が出雲大社の神官へ苦情を申し

立て、来年の約束を取り付けた後に神

餅と神器の授受が行われるという、一

風変わった神事が行われます。



鏡の池

佐久佐女の森に避難していた稻田姫が、日々の飲料水とし、また御姿を写された池で、姫の靈魂が深く滲透しているとされています。紙片に硬貨をのせて縁の運速を占い、早く遅めば良縁早く遅めば沈むと縁が悪いと言われています。

佐久佐女の森に避難していた稻田姫が日々の飲料水とし、また御姿を

写された池で、姫の靈魂が深く滲透しているとされています。紙片に硬

貨をのせて縁の運速を占い、早く遅めば良縁早く遅めば沈むと縁が悪いと言

われています。

八重垣神社

素盞鳴尊が稻田姫のために八岐大蛇を退治なさった時、佐久佐女の森に八重垣を造つて姫の身をお隠したという神話伝承に基づく神事です。

享保2年(1717)に編纂された『雲陽誌』に、「四月三日の祭には、本社より此御垣の二本の柵の下へ陰陽の神降臨ならせ給ふと申侍社等大麻をかさし鉾を持鼓をならし清酌を御垣で灌たてまつる」、毎年修理し東西に柵をたて御酒を貯亦己の日の祭是をみかくしの神事といふと書かれています。

佐久佐女の森に避難していた稻田姫が日々の飲料水とし、また御姿を

写された池で、姫の靈魂が深く滲透していると

されています。紙片に硬

貨をのせて縁の運速を占い、早く遅めば良縁早く遅めば沈むと縁が悪いと言

われています。

身隠神事

大蛇を退治なさった時、佐久佐女の森に八重垣を造つて姫の身をお隠したという神話伝承に基づく神事です。

享保2年(1717)に編纂された『雲陽誌』に、「四月三日の祭には、本社より此御垣の二本の柵の下へ陰陽の神降臨ならせ給ふと申侍社等大麻をかさし鉾を持鼓をならし清酌を御垣で灌たてまつる」、毎年修理し東西に柵をたて御酒を貯亦己の日の祭是をみかくしの神事といふと書かれています。

佐久佐女の森に避難していた稻田姫が日々の飲料水とし、また御姿を

写された池で、姫の靈魂が深く滲透していると

されています。紙片に硬

貨をのせて縁の運速を占い、早く遅めば良縁早く遅めば沈むと縁が悪いと言

われています。

六所神社

春の祈年祭、まさに出雲国総社としてのお祭りです。南北朝動乱期の觀応元年(1350)以前から現在まで続いていると書かれています。

佐久佐女の森に避難していた稻田姫が日々の飲料水とし、また御姿を

写された池で、姫の靈魂が深く滲透していると

されています。紙片に硬

貨をのせて縁の運速を占い、早く遅めば良縁早く遅めば沈むと縁が悪いと言

われています。

御田饌祭

〔島根県指定文化財〕

〔古墳時代から続く祭儀〕

春の祈年祭、まさに出雲国総

社としてのお祭りです。南北朝動

乱期の觀応元年(1350)以前から現在まで続いていると書かれています。

佐久佐女の森に避難していた稻田姫が日々の飲料水とし、また御姿を

写された池で、姫の靈魂が深く滲透していると

されています。紙片に硬

揖夜神社

〔島根県指定文化財〕

〔古墳時代から続く祭儀〕

春の祈年祭、まさに出雲国総

社としてのお祭りです。南北朝動

乱期の觀応元年(1350)以前から現在まで続いていると書かれています。

佐久佐女の森に避難していた稻田姫が日々の飲料水とし、また御姿を

写された池で、姫の靈魂が深く滲透していると

されています。紙片に硬

穂掛祭

〔島根県指定文化財〕

〔古墳時代から続く祭儀〕

春の祈年祭、まさに出雲国総

社としてのお祭りです。南北朝動

乱期の觀応元年(1350)以前から現在まで続いていると書かれています。

佐久佐女の森に避難していた稻田姫が日々の飲料水とし、また御姿を

写された池で、姫の靈魂が深く滲透していると

されています。紙片に硬

眞名井神社

〔島根県指定文化財〕

〔古代律令制時代から続く祭儀〕

春の祈年祭、まさに出雲国総

社としてのお祭りです。南北朝動

乱期の觀応元年(1350)以前から現在まで続いていると書かれています。

佐久佐女の森に避難していた稻田姫が日々の飲料水とし、また御姿を

写された池で、姫の靈魂が深く滲透していると

されています。紙片に硬

天眞名井澣

〔島根県指定文化財〕

〔古伝新嘗祭・御釜神事〕

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

行されている古伝新嘗祭の源流です。

祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

古伝新嘗祭・御釜神事

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

行されている古伝新嘗祭の源流です。

祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

古傳新嘗祭・御釜神事

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

行されている古伝新嘗祭の源流です。

祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

眞名井澣

〔島根県指定文化財〕

〔古代律令制時代から続く祭儀〕

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

行されている古伝新嘗祭の源流です。

祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

眞名井澣

〔島根県指定文化財〕

〔古代律令制時代から続く祭儀〕

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

行されている古伝新嘗祭の源流です。

祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

眞名井澣

〔島根県指定文化財〕

〔古代律令制時代から続く祭儀〕

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

行されている古伝新嘗祭の源流です。

祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

眞名井澣

〔島根県指定文化財〕

〔古代律令制時代から続く祭儀〕

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

行されている古伝新嘗祭の源流です。

祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

眞名井澣

〔島根県指定文化財〕

〔古代律令制時代から続く祭儀〕

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

行されている古伝新嘗祭の源流です。

祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

眞名井澣

〔島根県指定文化財〕

〔古代律令制時代から続く祭儀〕

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

行されている古伝新嘗祭の源流です。

祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

眞名井澣

〔島根県指定文化財〕

〔古代律令制時代から続く祭儀〕

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

行されている古伝新嘗祭の源流です。

祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

眞名井澣

〔島根県指定文化財〕

〔古代律令制時代から続く祭儀〕

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

行されている古伝新嘗祭の源流です。

祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

眞名井澣

〔島根県指定文化財〕

〔古代律令制時代から続く祭儀〕

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

行られている古伝新嘗祭の源流です。

祭典中の写真撮影は御遠慮下さい。

眞名井澣

〔島根県指定文化財〕

〔古代律令制時代から続く祭儀〕

天穗日命が天降られて以来、歴代の

神事の始まる正月4日は、天照大

神が御産れになつて御七夜の日があ

たり、現在、出雲大社の拝殿で斎

</

7 岩坂陵墓参考地

古事記には、火の神を生んだことにより亡くなったイザナミを出雲国と伯耆国境の比婆山に葬ったと記されています。

その陵墓参考地に指定されて、宮内庁により厳重・丁重に管理されているところが八雲町日吉「神納」にあります。径約20メートルの円墳があると言われています。



巡る

8 剣山

記紀神話で、亡くなつたイザナミを諦められずに黄泉の国まで会いに行つたイ

ナキは、蛆がたかり雷がわき出している妻の姿を見て逃げ帰りました。剣山には、逃げる道中、黄泉の国の軍勢が追つてきていたので剣を抜かれた場所であるという伝承があります。鳥居の奥の石段を上ると伊弉冉命を主祭神とする剣神社があります。



10 まちの駅女寅

憩う

東出雲地域の情報案内所です。小さな展示ギャラリーと喫茶、箱ショップなどがあります。人気のうどんは300円。

揖夜神社、黄泉比良坂に行かれる方は、貸自転車（4台限り・無料）もありますのでお立ち寄りください。

お問い合わせ TEL:0852-52-9311



9 黄泉比良坂

記紀神話で、黄泉の国から逃げ帰つたイザナキは、黄泉比良坂を千引き石で塞いで追いかけてきたイザナミに別れの呪言を言い渡しました。

古事記には、「黄泉比良坂は今、出雲国のかつて伊賦夜坂」と記され、その比定地の東出雲町揖屋平賀には、神代の物語を彷彿させる大きな石が青々と茂った木々の中、ひっそりと佇んでいます。



1 八雲立つ風土記の丘資料館

展示学習館には、風土記の丘地内出土の遺物をはじめ出雲国風土記の写本、県内の古代史を語る多くの資料が展示してあり、地内には「額田部臣」の銘文入り大刀が出土した岡田山1号墳や風土記植物園もあります。

レンタサイクルもありますので、自転車で巡るもの良いでしょう。

お問い合わせ TEL:0852-23-2485



2 出雲かんべの里

出雲かんべの里は、出雲地方の歴史・文化を学ぶことができる施設で「民話館」「工芸館」「自然の森」の3施設で構成されています。ものづくり体験や昔のお話会など、楽しく学ぶことができる企画がいろいろあります。

レンタサイクルもありますので、自転車で巡るもの良いでしょう。

お問い合わせ TEL:0852-28-0040



学ぶ

4 出雲国府跡

六所神社周辺に位置し、古代の飛鳥時代から中世の南北朝時代にかけての出雲国の政治的中心地で、現在の県庁や市役所などが集まった官庁街にあたります。



辿る

3 ガイダンス山代の郷

島根県最大の古墳であり、日本で初めて前方後方墳と名づけられた「山代二子塚古墳」。約1500年前に人工的に土砂を運び造られたもので、その土層を見学できる施設もあります。ガイダンス山代の郷はその山代二子塚古墳や周辺の古墳、遺跡などの見学拠点です。



お問い合わせ TEL:0852-25-9490

6 意宇の杜

「出雲國風土記」の中で最も著名な国引き神話で、八束水臣津野命が小さかつた出雲国に「国來、国來」と各地から土地を引き寄せ、最後に「おゑ」と言って杖をついた場所であり、意宇という地名の由来と記されています。比定地は2ヶ所。



5 出雲国分寺跡

奈良時代、聖武天皇が仏教による国家鎮護のために、全国の国ごとに建立を命じた寺院の跡です。国分寺の多くは、国府域内かその周辺に造営されました。発掘調査が行われ、南門・中門・金堂・講堂・僧坊・回廊・塔などの伽藍配置が復元整備されています。



龜甲に「大」文字



二重龜甲に劍花菱

『八重垣神社・揖夜神社』
出雲国造家の家紋、現在の出雲大社の
社紋(神紋)

二重龜甲に「有」文字



社紋(神紋)



社紋(神紋)

『神魂神社・眞名井神社・六所神社』
「有」の文字は、神有月の「十月」と書く。

※社築(出雲) 大社の古い時代の御紋も同じです。

大社の御文は、龜甲に有的の文字なり。有的の文字は十月とこれを書く。当社は陰神にして乾に在る神宮なり。因隅宮と号し、十月を専らにこれ用いる事、神道の深緑なり。故に十殿・御道具に、龜殻に有的の文字これ在る事

慶長13年(1608)「国造北島弘孝覚書案」

意宇六社
めぐり

文豪・小泉八雲の

